

しが学校支援センター  
「地域の力を学校へ」推進事業の実践校（2020年度実施分）



漁師さんから水草の話聞く児童

テーマ Theme	漁師さんが語る琵琶湖の環境と漁業
学校・園名 School name	東近江市立 能登川北小学校
講師等 Lecturer etc.	滋賀県農政水産部水産課 能登川漁業協同組合
実施日 Date	令和2年 10月 2日
教科等	総合的な学習の時間（5年生）

授業  
Class



総合的な学習(5年生)の連携授業として、滋賀県農政水産部水産課と能登川漁業協同組合の協力の下、琵琶湖の環境に関する学習を実施しました。当日、児童は学校から能登川水車&カヌーランドへ移動し、栈橋から漁業協同組合が用意してくださった漁船に乗船。伊庭内湖から大同川を経て琵琶湖に向かいました。船上からは、内湖や大同川の両岸に広がるヨシ帯を観察し、自分たちが事前に調べたことと重ね合わせてヨシの役割を考え、担任の先生や漁師さんのお話を聞きました。また、水の濁りや匂いを確認し、船から手を伸ばして直接水に触れる体験も行いました。

途中、大同川と琵琶湖の境に設けられている堰では、水位に差があるため船は直接通過できず、通過のための作業を体験しました。(中央の写真) 船で堰を通過する体験は全員初めての体験で、普段何気なく目に見えている堰を、違った視点から見直す機会となりました。そのせいか、とても興味深い活動となりました。

堰を通過後、船はいよいよ目前に広がる琵琶湖に出て、湖上で漁師さんからお話を聞きました。(写真右) 魚(えり)を見ながらその漁法についての説明、年間を通じた水温の変化、琵琶湖の水量(滋賀県に住む人の240年分、水位1cm分の水は琵琶湖の水で生活する近畿1400万人の2日分)、水が一番汚れた時の話など、児童からの質問にも応じながら環境学習にふさわしいお話をしてくださいました。ここでも実際に琵琶湖の水に触れ、水の濁りや匂いを内湖のものと比較することもできました。

帰路は、途中で船を止めて「ミズバナギンバイ」を観察しました。外来魚だけでなく外来植物も環境問題になっていることを知り、新しい追究課題と受け止めた児童の姿も見られました。

下船後は、水車資料館へ移動し、琵琶湖の漁法についての映像資料を視聴し、その後改めて漁師さんからお話を聞き、質問に答えていただいて授業を終えました。

感想  
Impression

児童より Impression from

- 琵琶湖は広い！最高にきれいな景色だった。たくさん水があることもわかった。1400万人の大切な飲み水なのに、場所によって水がくさい場所もあり、汚れが目立つ場所もあって悲しくなりました。田んぼの水が琵琶湖を汚していることを初めて知った。
- 湖岸や内湖のごみの多さに驚いた。大きなごみも浮いていた。また、釣り人もたくさんいたが、釣り糸や釣った魚を堤防や道路に捨てているのを見て、マナーの悪さを感じた。漁師さんを困らせるオオバナミズキンバイやホテイアオイなどの水草が増えすぎていることもわかった。外来魚はみんなの努力で減っていると聞いて驚いた。
- 琵琶湖を汚すのも人。琵琶湖を守るのも人。人間の責任は大きいと思った。

学校より Impression from

■校区にある琵琶湖や内湖についてより深く学ばせたい、考えさせたいとの願いをもち、支援センターに相談させていただき、県の水産課・地元の能登川漁業協同組合をご紹介いただきました。事前の打ち合わせで、組合長様より、琵琶湖の環境問題の課題の大きさ、県や漁協をあげての外来魚駆除や琵琶湖の環境美化の努力が少しずつ実を結んでいること、漁業への思いをお聞かせいただき、「環境問題の実感」「私たちにできることを考えるきっかけ作り」の2本の柱で体験学習を組み立てました。子どもたちは、景色の美しさ、水や湖岸の汚れ、外来種の多さを湖上で感じつつ、人間がすべきことはたくさんあることを実感を持って感じる事ができ、心に残る素晴らしい学習ができました。

講師より Impression from

- 地元の漁業者からの話をご希望されており、能登川漁協に講師のご協力をいただき、実施することができました。地元根ざした授業内容とすることができてよかったです。地元の子もたちへ地元の漁業者から伝えることは、意義あることだと思います。今後も、このような機会がありましたら、どうぞよろしくお願い致します。
- 能登川北小学校の皆さん、能登川は、ホンモロコ等琵琶湖の魚たちがたくさんいるまちです。そこに住む皆さんが琵琶湖に興味をもってくださることを大変うれしく思います。これからも琵琶湖の魚や漁業に興味をもってたくさん学んでいってください。